白神ねぎ

○長ねぎ栽培について
◎越冬早取り苗の管理ポイント
・温度管理
徐々に気温が上がってきます。ハウス内の湿度を上げないように、朝はハウスを開けてモヤを抜くこと。
最低気温がマイナスと予想されない限り、トンネル被覆はしない。（日中も被覆すれば徒長の原因となります）
・水管理
培土が乾きにくくなっているため、灌水の間隔は培土の乾き具合をみて行います。
灌水は日中行い、温度が低下する夕方は避ける。

白神山うど

○山うど栽培について
◎伏せ込み床の温度管理
・２月下旬頃までは気温が上がらず、加温開始から収穫までの日数がかかってきますが、生長が遅いからといって無理に温度を上げることなく、適切な温度管理を行って下さい。（萌芽後は芽の位置の温度で15℃～17℃）
・一時的な極低温による凍障害防止のため、最低でも早朝５℃以上を保つよう保温資材を重ね、凍害を回避するようにして下さい。
◎ハウス内の温度管理
・２月中旬以降は日が差す日も徐々に多くなってくるため、ハウス内の温度にも気を付けて下さい。（ハウス内温度15℃目安）
極端に高温となる日の日中は寒冷紗等で遮光し、焼けの防止に努めて下さい。

新規の園芸品目について

あなたも農業所得向上を目指して、スナップエンドウ、舞茸栽培に取り組みませんか?!

品名　スナップエンドウ
１．栽培歴

栽培歴	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	目標収量
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	
春播き夏どり			○ ○ ◎ ◎ ―― □ 露地										300kg /５ａ
		○ ○ ◎ ◎ ―― □ ハウス											
								○ ◎ ―― □ ハウス					

○播種　◎定植　□収穫

品名　自然まいたけ
１．栽培歴　半露地栽培

栽培歴	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	目標収量
	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	
１年目		○ ～	△ ～ ――	――	――	◎ ～	遮光期間 ―― □ ――						2,000kg /10ａ
２年目	――	――	――	――	――	――	遮光期間 ―― □ ――						
３年目	――	――	――	――	――	――	遮光期間 ―― □ ――			● ～			

○廃ブロック運搬　△菌育成　◎伏せ込み　□収穫　●廃ブロック廃棄

※自然まいたけはハウスが必要となります。
稲作をやめたり、育苗をやめたハウスの再利用をおすすめします。
※廃ブロックは藤里町で販売になります。
運搬は個人でやらなければなりません。
廃ブロック価格は、市町で異なります。

経営収支（10ａ当たり）

項目／品目		スナップエンドウ	自然まいたけ	合　計
収益	10a当たり収量(kg)	600	2,000	2,600
	kg　単　価	1,100	500	
	10a当たり販売額(円)	660,000	1,000,000	1,660,000
経費(内訳)	種　苗　費	30,000	160,000	190,000
	肥　料　費	40,000	0	40,000
	農　薬　費	50,000	0	50,000
	流　通　経　費	53,000	250,000	303,000
	そ　の　他	200,000	200,000	400,000
	合　計	373,000	610,000	983,000
所　得		287,000	390,000	677,000
労　働　時　間		463	200	663
１時間当たり所得		620	1,950	2,570

※スナップエンドウの経営費は、２年目以降資材部分で減少します。

連絡先
能代地区
（営農企画課　74－8345）
二ツ井地区
（二ツ井営農センター　73－5193）
藤里地区
（藤里営農センター　79－1644）

牡牛座（4・20～5・20）　後回しにしてきたことに取りかかるのに良い時期です。用事を先に終わらせた方が自分の時間も楽しめます

稲作・畑作　営農情報

次年度の技術対策

（1）土づくりによる気象変動に強い稲づくり

令和４年度は、天候の変動が激しく、このような気象条件下でも高品質・良食味米を安定的に生産するためには、透排水性の改良、耕深（根域）の確保、地力の維持・増強などの総合的な土づくりが重要となります。耕深を確保する、過度の代かきを避ける、有機質資材やケイ酸質肥料の施用等、登熟後半まで稲体の活力を維持できるような土づくりを目指しましょう。

また、使用する肥料の種類が多様化し、肥培管理もそれぞれ違ってきています。ほ場条件や肥料の特性を理解し、適切な肥培管理に努めましょう。

（2）基本技術励行による収量・品質の安定化

令和４年度は収量が少なく、品質については充実度不足等によりくず米が多くなりました。毎年生育期間中も急激かつ極端な気象変動が起こっており、その影響を最小限にするには、基本技術をしっかりと確実に実施することが重要になります。

安定した収量・品質を確保するためには、健苗育成（活着良好な苗）、適切な田植え作業（時期、植込本数の確認、植付深の調整等）、生育ステージや気象条件に適応した水管理（浅水、深水、適期中干し、落水時期、カドミウム吸収抑制等）等の耕種管理を今一度見直しましょう。

（3）いもち病対策

令和４年度はいもち病の発生がやや多く、本田への持ち込みが原因と見られる穂いもちの発生が見られました。種子消毒や育苗期の薬剤防除を確実に実施するとともに、稲わら・籾殻を育苗施設の近くや施設内に置かない、余り苗を早期に埋没処分する等、耕種的防除も併せて実施しましょう。

（4）斑点米カメムシ類対策

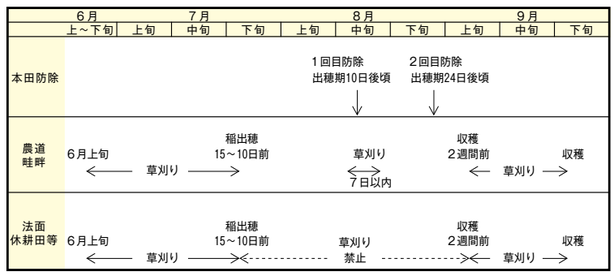
令和４年度は、斑点米カメムシ類の加害による斑点米被害が少なくなりましたが、引き続き雑草管理と薬剤防除の合わせ技の適切な防除対策を実施しましょう。

【雑草管理】

近年、主要種となっているアカスジカスミカメは、カヤツリグサ科雑草やノビエの穂に産卵するため、本田内及び畦畔のこれらの雑草管理を徹底した上で、薬剤防除と適切に組み合わせることが重要です。

●農道・畦畔の草刈り
・６月上旬から稲が出穂する10～15日前までに数回行う。刈り込み軽減剤や代用剤を使うのもよい。
・８月は出穂期10日後頃の薬剤散布から７日以内に草刈りを行い、その後は稲の収穫２週間前まで草刈りは行わない。

●水田内の雑草防除
・水田内の除草効果を高めるため、畦畔補修等の漏水対策、田面の均平を図り均一な水深を確保する、代かきから除草剤散布までの日数を空けすぎないなど、適切な管理を行う。



カメムシ類に対する本田防除と雑草管理の体系

【薬剤防除】
・出穂期10日後頃の防除（スタークルまたはアルバリン剤）を徹底する。
・牧草地・休耕田等の発生源が隣接している場合や、水田内にノビエ、カヤツリグサ科雑草の発生が認められる場合は、出穂期10日後頃と同24日後頃の２回防除を必ず実施する。
・薬剤抵抗性の発達を防止するため、２回目はキラップ剤を使用する。

来月のあなたの運勢（2023年３月）

牡羊座（3・21～4・19）　上昇運の影響でかなり忙しくなりそう。優先順位を決め、あなたにとって重要なものに注力して。新規のものにツキ